

「え、是非一度は行つて見やうと思つて居ます。」
 「なるべく早い方がいい、ね。」と叔父は云つた。そして睫毛がちらりと動いた。
 「御大事に。」と列車が動き出した時彼は云つた。そして頭を下けた。
 叔父は黙つて皆に答禮した後、すぐに窓をしめてしまつた。
 ぞろ／＼と足を返して行く見送人の間に彼等は立つて、青白く光るレールに沿つて眼を走せ乍ら、去り行く列車の影を見送つた。

大正十年十一月二十七日印刷
 大正十年十一月二十七日發行

ウエストポケット傑作叢書
 第五篇 定價金五拾錢

生と死との記録

著者 權者 印



著者	豐島 興志雄
發行者	和田 利彦
印刷者	川崎 安治郎
印刷所	東京市京橋區南船場町十一番地 川安印刷所

圖書贈呈目

發行所

東京市日本橋通四丁目

春

陽

堂

電話本局五十一番
 振替東京一六一七番

新興文藝叢書

各冊金八拾錢
郵送料各六錢

本叢書は新興文藝の精髓をよく一瞬の下に
選集すると同時に、現下の文藝を知らんと
する人々の間に我が文藝の内奥を窺はしめ
理想的統一のなりが新しき藝術の力に
めんとするものは本叢書に就き、香ばしく
しんとする人は本叢書に就き、香ばしく
果實は、來たり奪ふに任せん。

- | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|---------|---------|-------|-------|--------|-------|---------|---------|---------|---------|--------|--------|----------|------|-------|
| (7) | (6) | (5) | (4) | (3) | (2) | (1) | (8) | (9) | (10) | (11) | (12) | (13) | (14) | (15) | (16) | (17) |
| ■ 或る | ■ 初戀 | ■ 小作人の死 | ■ 蒼き夜と空 | ■ 秋の歌 | ■ 波の上 | ■ 一握の藁 | ■ 鼻 | ■ 不幸な偶然 | ■ 葡萄園の中 | ■ 恩を返す話 | ■ 陸奥直次郎 | ■ 二つの途 | ■ 横田の戀 | ■ 漱石先生の死 | ■ 鯉 | ■ 草 |
| 朝志賀直哉 | 戀森田草平 | 小川未明 | 空谷崎精二 | 歌長田幹彦 | 上正宗白鳥 | 藁田山花袋 | 芥川龍之介 | 里見弴 | 中有島生馬 | 話菊池寛 | 長與善郎 | 豊島與志雄 | 戀廣津和郎 | 久米正雄 | 室生犀星 | 吉田絃二郎 |

春陽堂發行

389
56

終